

ご挨拶

日本インターネットプロバイダー協会は1999年12月に設立され、かれこれ2年の月日が流れたこととなります。この間にインターネットは社会へ大きく普及し、また、ビジネスモデルの多様化、関連技術の進歩には目を見張るものがありました。そして、IT基本法の制定、e-Japan戦略の策定等インターネットは国を挙げて成長を促進すべき社会インフラとなりました。こうした激しい環境の変化の中で、我々は日々サービスの向上を目指して自己研鑽を繰り返しておるところです。

米国のインターネットビジネスの状況を見ますと、インターネットのユーザーベースが大きく成長している中で成功するビジネスもありますが、その陰で失敗するものも数多く見られます。また、今成功しているビジネスであっても、来年になったらどうなるか誰も予測ができない状況でもあります。不確実性が多い環境の中で様々な試みがなされている点は、わが国においても当てはまるものであり、学ぶことが多いと思っています。

このような状況において、我々が自身に問わなければならないのは“インターネットの本質は何であろう”ということだと思います。技術は急速な進歩を遂げつつも、サービスの面で真に社会生活を豊かにするものは人間的な感性による部分が多いのではないだろうか。原点に返って考えてみますと、インターネットの最大の魅力は人と人とが距離や時間を超えて結びつき知的価値を紡ぎ出すことができることだと思います。我々の使命、インターネットプロバイダー産業の役割はユーザーと社会とを結び、新たな価値を世の中にもたらすことだと思います。

日本インターネットプロバイダー協会は産業としてのインターネットプロバイダーの健全な育成と、ユーザーの利便性の向上に資することにより、国民生活の向上と我が国経済社会の発展に寄与することを目的として設立されました。活動内容としては、ビジネス部会、ユーザー部会、行政法律部会、地域ISP部会等数々の部会活動を実施しており、様々な切り口から産業の発展を目指した研究やアクションを行っています。会員数は12月現在で賛助会員7団体を含め、224団体となりました。今後、更に多くの皆様にご参加を頂くことができれば、業界の声を更に大きく、強いものにすることが出来ます。皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2001年12月



社団法人日本インターネットプロバイダー協会会長
渡辺 武経